

令和 6（2024）年度 滋賀文教短期大学 ティー칭ング・ポートフォリオ

記入日	年度当初 6 月 1 日 / 年度末 3 月 1 日
氏名	西松 秀樹
子ども学科	准教授
学科以外の兼務職	学生サポートセンター

ティー칭ング・ポートフォリオとは、責務、理念、方法、成果、目標の 5 つの要素を含む教育研究業績について記録した資料です。年度当初に責務と理念を記入し、年度末に方法、成果、目標を記入します。本学では自己点検も兼ねています。

ティー칭ング・ポートフォリオは、本学の全専任教員が記入後、所属学科長に提出することとします。その後、学科長、学長等にてティー칭ング・ポートフォリオの内容の把握を行い、教育課程における教育力の質の向上に活用します。その際、自己点検・評価委員会や FD 委員会等の関連する委員会や部署と連携することとします。

各教員が記入したティー칭ング・ポートフォリオは本学ホームページにて 3 年間公表します。

1. 責務（何を行っているのか）

①担当科目

担当科目名	学科	学年
発達心理学	子ども	1
基礎力プログラムⅠ（初年次教育）	子ども	1
子ども家庭支援の心理学	子ども	2
子どもの理解と援助	子ども	2
教育相談	子ども	2
カウンセリングマインド研究	子ども	2
教職実践演習（幼・小）	子ども	2
教育情報処理	子ども	2
子どもの心理学	国文	2

②担任制度

担任（1 年生）	有	担任（2 年生）	有
----------	---	----------	---

③委員会活動

運営協議会		SD 委員会	
研究倫理委員会		地域連携委員会	
危機管理委員会		入学者選抜委員会	
自己点検・評価委員会		広報委員会	
認証評価準備委員会		高大接続・連携委員会	
図書委員会		保育・教育実習運営委員会	委員
学生委員会	委員	ハラスメント防止委員会	委員長
障害学生支援・学生サポートセンター運営 WG	委員	教員資格審査委員会	
キャリア支援委員会		教員採用選考委員会	
教務委員会		湖国カルチャーセンター運営委員会	

FD 委員会	委員	授業料等減免者審査委員会	委員長
奨学生奨学金審査委員会		紀要編集委員会	
学生調査委員会	委員長	教職実践演習運営委員会	委員
教学調査委員会		学長推薦選考委員会	
不正調査委員会		衛生委員会	委員長

④実習業務

保育実習部会長		小学校部会長	
幼稚園実習部会長		子ども学科 実習事務	

⑤びわ湖東北部地域連携協議会 * 文部科学省「私立大学等改革総合支援事業」タイプ3 地域社会への貢献プラットフォーム型

協議会員		WG-A（産業振興に向けた産官学連携事業）学内代表	
協議会事務局		WG-B（地域コミュニティの活性化事業）学内代表	
WG-D（事業管理）学内代表		WG-C（地域を担う次世代人材の育成）学内代表	

⑥外部資金獲得に伴う研究活動

外部資金獲得	無
助成者	
資金名	
研究種目	
期間	
助成金額（期間中合計）	
研究課題	
備考（分担者等）	

2. 理念（どのような考えに基づいて行っているのか）

教育理念	学園創設者松本富士之助「教育は人にあり、国家の未来は教育にかかっている。教育の向上には、まず、教育者の養成が重要である」
建学の精神	「知育」・「徳育」・「体育」の鼎立と調和の取れた人間形成
学科の教育理念・目標	【子ども学科】 幅広い知見と豊かな教養を備え、子どもに関わる専門的な知識・技能と実践力を修得し、向上心や探究心をもって保育・教育の分野に広く携わることのできる人材の育成
個人の教育理念・目標	・基礎力プログラムⅠ（初年次教育）を通し、学生に必要な基礎的能力を育成するとともに、学生の長所を認め、笑顔を絶えないようにすることで、キャンパスに明るい雰囲気醸成していく。互いに力を合わせて卒業するという目標づくりに努める。 ・保育者・教育者として必要な専門的な知識や技能の習得に向けて、見通しを持たせ、具体例をもとに討論をすることで、「主体的・対話的で深い学び」となるよう工夫する。 ・社会に貢献できる人材の育成に向け、講義や演習を通し、職業人としての「使命感、倫理観」を身につけさせ、人生において主体的に学び、挑戦する契機にしていく。 ・就職支援のため、公務員試験等に見通しをもたせ、学生が前向きに挑めるよう支援する。 「公認心理師」の視点から配慮の必要な学生については、サポートセンターの関係教職員と情報共有し、不適応をおこさないようサポートに努める。

3. 方法（その考えをどうやって実現しているか）

授業	①主体的・対話的で深い学びにつながる授業 保育や教育の事例から対応策を検討し、ディスカッションにより様々な考え方を取り入れ、深い学びにつながる授業を目指した。また、課題の提出等はGoogle Classroom を活用し、質問しやすい環境作りに努めた。 ②「コミュニケーション能力」「プレゼンテーション能力」を高める授業 グループワークを通して実習、ディスカッションした内容の報告やカウンセリングスキルを活用した実習を取り入れ、保育や教育に求められるコミュニケーション能力の向上に努めた。また、PowerPoint を活用した発表を通して、プレゼンテーション能力の向上に努めた。 ③教員としての経験を伝えることを通しての「使命感や倫理観」を高める授業 教職経験から得た知見を具体的に伝えることで、保育や教育を担う使命感や倫理観を育成することに努めた。教職のやりがいや喜びを伝えることで就職への意欲を喚起させた。
授業以外 (学生支援等)	①対話を通じた学生の状況把握 授業以外の場でも積極的に声をかけ、心身の健康状態の把握に努めた。配慮の必要な学生については、サポートセンターで情報交流し、援助できるようにした。公認心理師や学校心理士の研修を積極的に受講し、適切な心理学的支援の力量を高めるよう努めた。 ②公務員試験志望者への積極的支援 公務員試験を受験しようとしている学生に必要な資料を提供し、受験にむけてのモチベーションを高めようと心がけた。 ③スチューデントアワーを活用した学生の理解 イベントや体育館での球技に参加し、学生との交流を増やし、キャンパスに明るい雰囲気を醸成するよう努めた。

4. 成果（その方法を行った結果、どうだったか）

授業	学生は主体的に授業に取り組み、積極的に発表するようになった。また、表現力が向上し、自信を持って意見を発表する学生が増えた。到達目標を達成した学生が100%で、「よく理解できた」という設問に肯定的な評価をした（95～100%）。
授業以外 (学生支援等)	キャンパスに明るい雰囲気が醸成されている。こうした雰囲気で学生生活の満足度を高めることが、学生の不適応状態を少なくすることに結びついている。

5. 目標（今後どうするか）

授業	保育士や小学校教諭として就職する割合を高水準で維持し、将来につながる資格と技能が習得できる授業を実施していく。
授業以外 (学生支援等)	相談しやすい関係づくりを構築し、学生支援を通して、学生の満足度を高めていきたい。

6. 重点目標に関する自己点検・評価（特に努力した2項目）

担当業務	大学全体及び学科の担当業務を確実に把握し、計画的に進めた。大学全体では9委員会に所属し、そのうち、4委員会で委員長を務めた。
広報・募集	オープンキャンパスの動員数や大学 SNS の情報に関心を持ち、インスタグラムを活用して、広報活動に努めた。

7. 記載内容に関する根拠資料

- ①令和 6(2024)年度 滋賀文教短期大学 シラバス
- ②令和 6(2024)年度 滋賀文教短期大学 科目別成績分布状況
- ③令和 6(2024)年度 滋賀文教短期大学 担任一覧表
- ④令和 6(2024)年度 滋賀文教短期大学 委員会構成名簿
- ⑤令和 6(2024)年度 滋賀文教短期大学 組織図

以上